平成26年度第2回千葉市廃棄物処理施設設置等審議会議事録

1 日 時：平成26年10月10日（金）

15時30分～17時00分

2 場 所：千葉中央コミュニティセンター2階 28会議室

3 出席者：（委員）立本会長、寺嶋委員、畑中委員、三澤委員、羽染委員、
杉田委員

（事務局）神崎資源循環部長、大塚産業廃棄物指導課長、

木下課長補佐、木村係長、關主事、岡本技師、林技師

（申請者）株式会社タケエイ 徳山取締役他6名

4 議題

（1）産業廃棄物最終処分場（安定型）の変更許可申請に対する意見について

（2）産業廃棄物最終処分場（安定型）の変更許可申請に対する答申について

（3）その他

5 議事概要

（1）産業廃棄物最終処分場（安定型）の変更許可申請に対する意見について

申請者から、「委員意見に対する申請者回答」の資料に基づき説明があり、その後、質疑応答を行った。

（2）産業廃棄物最終処分場（安定型）の変更許可申請に対する答申について

事務局から答申別紙(案)を説明し、その後、内容の検討を行った。

（3）その他

特になし。

6 会議経過

【司会（木村産業廃棄物指導課処理係長）】 定刻となりましたので、ただいまより、平成26年度第2回千葉市廃棄物処理施設設置等審議会を開催させていただきます。

私は、前回に引き続き、本日の司会を務めさせていただきます産業廃棄物指導課処理係長の木村と申します。よろしくお願いたします。恐れ入りますが、着席して進めさせていただきます。

【司会】 会議に当たりまして、資源循環部長の神崎よりご挨拶申し上げます。

【神崎資源循環部長】 神崎でございます。委員の皆様方におかれましては、大変ご多忙の中、当審議会にご出席を賜り、まことにありがとうございます。

また、前回の審議会の際は、大変お暑い中、現地でご視察をいただくとともに、多角的な側面からご審議をいただきましたこと、本当にどうもありがとうございました。

今回、第2回の審議会ということでご案内させていただいておりますとおり、引き続き、株式会社タケエイの産業廃棄物最終処分場の変更許可申請が案件でございます。第1回の審議会の後、委員の皆様方より頂戴いたしましたご意見をもとに第2回審議をさせていただきたいと思いますが、加えまして、議題（2）にありますとおり、今回は、答申という形でのご審議をいただくこととなっております。限られた時間ではございますけれども、それぞれのご専門の立場から積極的にご意見を頂戴いたしまして、答申をおまとめいただくことをお願いいたします。簡単ではございますけれども、開会に当たっての私からの挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろしく願いいたします。

【司会】 本日の会議につきましては、千葉県廃棄物処理施設設置等審議会設置条例第5条第2項に、審議会は半数以上の委員が出席しなければ会議を開くことができないと規定がありますが、本日は6名中6名全員の委員の出席をいただいておりますので、当会議は成立しております。

続きまして、平成26年8月1日付人事異動で事務局職員がかわっておりますので、紹介させていただきます。産業廃棄物指導課長補佐の木下です。

【木下産業廃棄物指導課長補佐】 木下です。どうぞよろしく願いいたします。

【司会】 次に、お手元の資料の確認をさせていただきます。まず、本日の会議次第、席次表、資料1、委員意見に対する申請者回答の計3部でございます。それと、本日の申請者が用意いたしました資料をあらかじめ机の上に置いてございました大木戸第2最終処分場IV期拡大事業と書かれた一つづりの配布になっておりますが、こちらの全て、過不足なくございますでしょうか。

なお、千葉県情報公開条例第25条の規定で、審議会につきましては、原則公開とされておりますので、本会議も公開いたします。また、議事録についても公開いたしますのでご承知おきいただきたいと存じます。

それでは、これからの議事の進行を立本会長へお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

【立本会長】 本日はお忙しい中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。先ほどありましたように、本日の議題は大きく2つございます。まず、最初の議題でございますけども、産業廃棄物最終処分場安定型の変更許可申請に対する意見についてでございます。事務局よりご説明をお願いいたします。

なお、杉田委員が、時間が5時以降はちょっと難しいということなので、そういったことも踏まえて時間的なことも留意しながら進めたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。どうぞ。

【大塚産業廃棄物指導課長】 産業廃棄物指導課長の太田でございます。よろしくをお願いいたします。失礼して座ってご説明させていただきます。さて、平成26年7月に開催されました第1回の審議会及びその後にも委員の皆様からご意見をいただきましたが、今回は申請者に対するご意見のみいただきましたので、申請者から説明をさせていただきたいと存じますが、会長、よろしいでしょうか。

【立本会長】 どうぞ。

【大塚産業廃棄物指導課長】 それでは、申請者よりご説明をお願い申し上げます。

【申請者（清水氏）】 それでは、7月25日開催の委員意見に対する申請者回答として、述べさせていただきます。着席での回答をご容赦願います。

まず、第1項目目としまして、廃棄物関係（1）廃プラスチックに含まれる非飛散性石綿とは具体的にどのようなものか。また、これらは中間処理場を経ずに、直接解体現場から搬入されるものかとの意見がございました。

それに対しましての回答としまして、1、産廃関係、廃プラスチックに含まれる非飛散性石綿とは、建設業労働災害防止協会による石綿含有建材別作業レベル区分におけるレベル3「その他の石綿含有建材（成形板等）」になります。

レベル3につきましては、お手元にあります参考資料の1ページのところにフローが入っておりますので、ご参照いただければと思います。レベル1からレベル2、レベル3となりまして、レベル3というのはこちらに示す部分であります。また、非飛散性石綿は、石綿含有廃棄物として保管基準、収集・運搬の基準に基づき飛散防止措置を講じております。

また、非飛散性石綿廃棄物の取り扱いに関する技術指針に基づき、中間処理場を経ずに直接産業廃棄物最終処分場へと搬入しています。

こちらのほうは参考資料の2のほうになるんですけど、発生元からそのまま中間処理場を経ずに厳重に梱包した形で最終処分場のほうへと搬入という形になっています。また、最終処

分場のほうでは、埋立場所、埋め立ての期日等を記載した資料を永久保存としています。

保管基準としまして、発生元にて二重梱包。収集・運搬基準として、二重梱包された石綿含有廃棄物は最終処分場に搬入する。埋立基準としまして、二重梱包のまま散水・覆土を行いながら埋立位置を記録し埋め立てしています。

(2) 展開検査は全量(全車)が対象と判断してよいかとの意見をいただきましたが、回答としましては、展開検査は全量(全車)が対象となっています。

続きまして、水質関係、(1) 地下水位面と掘削底面が1.5メートルから2メートルと近いので、廃棄物との接触が懸念されるが、過去の地下水位変動からこれらはおそれがないと判断してもよいか。前回の審議会でも質問が出ていましたが、回答では掘削してみても判断するような回答でしたが、定量的な解析結果による判断が欲しいとの質問をいただきました。

回答としまして、数カ月間連続して第一帯水層の地下水位を観測し、どの程度の幅で上下変動するか確認しています。隣接Ⅲ期処分場で平成21年度に実施しています。これにつきましては、表の2にグラフを示しています。

また、降雨と水位変動の調査結果は、表2-2に示しますように、最大日雨量110ミリから180ミリほどの豪雨があった際も、その影響による水位の変動幅は最大25センチにとどまっていました。また、観測期間を通しての最大変動幅も43センチでした。そちらのほうは表の2-2、下のほうなんですけど、上が水位、下が降雨量の関係を示しております。したがって、当該地区の地下水位は、ほぼ一定の標高で安定しており、図2-1に示しますように、1.5メートルから2メートルの離隔をとれば、掘削底面に直接地下水流動部分が触れるおそれはないと捉えています。

こちらのほうが既存の観測井戸、何か所かあるんですけど、それらと今回掘削する断面を模式化した図面でございます。Ⅲ期のときはこちらのほうで1.5メートルから2メートルということだったんですが、地下水の流れというのは下流方向へ流れていっていますので、Ⅳ期の拡大の部分では、さらに地下水位は下であるのではないかということを確認しています。また、Hのところ、約1年間水位を観測していましたが、その間でも大きな変動は確認されていません。

続きまして、(2)の質問、排水施設の検討で、2・3・7路線では、現況と埋め立て完了時に……を設置するとあるが、図が見にくく、現況がどのようなになっているかわからない。埋め立て完了時には現況の施設と新設の2つの施設が併設されるのか、流量をふやすように改良するのか、何も無いところに新設するのか、わかりやすくしてほしい等の意見をいただきました。

た。

回答としまして、排水施設に関しての新旧対照を図2-2に示しております。こちらのほうは新旧対照ということで示しているんですが、赤字の部分が新しく設置する部分、こちらの部分がⅢ期で、撤去という形になっております。お手元の資料の中に、排水流域図の現況（着工前）というのがあります。こちらのほうから、Ⅲ、Ⅳ期拡大時の廃止路線、Ⅳ期拡大時の追加路線という形で工事の流れに沿って流域と排水施設をわかりやすく表示させていただきました。

先ほどの配付の資料の中でですけど、これが着工前です。今、Ⅲ期の形で、こちらの流域を背負っていると。これを廃止しまして、Ⅳ期のときに、影響のある部分を横引きして、既存の施設に流している。この部分が廃止になって、その分を、こちらを横を回して既存の施設に接続という形でございます。多少前後して申しわけありません。

続きまして、3の騒音・振動関係、（1）環境に与える影響は廃棄物埋め立て時の状況で検討されているが、掘削時にはより短期間の間に連続して、埋め立て量に相当する土砂の移動などが行われるので、騒音・振動・砂塵等十分に注意して工事を行ってほしいとの意見を頂戴しました。

回答としまして、騒音、振動、粉じん等が周辺の環境に影響を及ぼさないように十分注意、配慮いたしますという回答でございます。

続きまして、市原市から意見をいただきましたので、こちらのほうで説明させていただきます。まず、市原市の水道部さんから、水質等に影響のないようにすること。また、水質等への影響・汚染が確認されたら、早急に連絡、報告し、対応の協議をすること。給水課のほうから意見をいただきました。

回答としまして、水質等に影響がないように十分配慮し、水質検査基準に基づき水質検査を行っております。また、水質等への影響・汚染が確認されたら、迅速に報告・協議を行い、原因の究明に努め、適切な対策を講じます。

続いて、環境部さんのほうから、周辺への土砂等粉じんの飛散について十分配慮すること。騒音・振動が周辺の環境に影響を及ぼさないように十分配慮すること。環境管理課さんからいただきました。

回答としまして、土砂等粉じんの飛散については散水を行い、周辺へ影響が及ばないよう十分配慮いたします。

騒音、振動が周辺の環境に影響を及ぼさないよう十分配慮いたしますという回答でございます。

以上で、委員意見に対する申請者の回答とさせていただきます。

【立本会長】 どうもありがとうございました。ただいま質問、それに対する回答を述べていただきましたけれども、何か皆さんのほうでご質問等がございましたらお願いしたいと思いません。いかがでしょうか。

【寺嶋委員】 廃プラスチックに含まれる非飛散性の石綿の処理について、先ほどこういう作業基準でやりますということでもわかったんですけど、そういう基準なり何なりをきちんと守ってもらうためには、会社としてコンプライアンスといいましょうか、法令遵守という大げさになりますけれども、そういうようなこと、きちんと守っていただくために会社としてどんなガバナンスの体制というのをタケエイさんの場合はとっているのか、参考までに説明していただけますでしょうか。

【申請者（徳山氏）】 株式会社タケエイの徳山と申します。よろしく申し上げます。今の先生のご質問なんですが、まず解体現場がございまして、弊社には、作業主任者の免許を持った者が多数おりまして、そちらの現場に出向いて、まず、搬出の打ち合わせを行って搬出計画を立てまして、それで袋等の規定、排出事業者様とその辺の協議もいたして、その後、これは法律ではございませんが、自社の基準としまして二重梱包をして、一切あけないようにして最終処分する。また、処分した後も、先ほどちょっと説明したんですが、位置を図面上に落としまして、層ごとにどの位置にどの程度入っているということが後にもわかるような体制をとっております。簡単ですが、以上です。

【寺嶋委員】 非飛散性の石綿の処理ということ以外に、会社として何か産業廃棄物全般の処理といたしますか、事業を行う上に当たって、会社としてそういうコンプライアンス、法令を遵守するというような観点から、会社としてどんな体制というようなものを、タケエイさんの場合、つくられておるのでしょうか。

【申請者（徳山氏）】 今、部署でもCSRという部門を設けまして、コンプライアンスが我々この仕事をする上で一番大事なことだと思っております。その中で、環境基準のISO14000もそうなんです、全事業所で取得してございまして、そういったことに基づきまして法遵守の面では、半年に1度、法が改正されていないかどうかの確認等、こういったことも行ってやっております。

あとは自主的なISOに沿った形になるんですが、自主監査等も含めて半年に1度だったと思いますが、そういった形で自主監査等も行ってございます。

【立本会長】 よろしゅうございますか。

【寺嶋委員】 はい。

【立本会長】 そのほか。どうぞ。

【羽染委員】 質問の2番の水質関係の(1)というのは私が聞きましたので、ちょっと最終確認をさせていただきたいのですが、表の2-1というのはA、B、C、Dと観測井Hがありますけども、この5カ所で、期間内最高水位、最低水位とありますけど、これは1年間のデータなんですか。表2-2は、2009年7月、8月の変動グラフが書いてありますが、これは表2-1のほうは1年間の変動幅というふうに捉えてよろしいのかどうかという確認です。

【申請者(清水氏)】 回答いたします。観測井のA、B、C、Dにつきましては、2009年の1カ月間でございます。拡大部の観測井Hについては1年間観測しております。なぜ1年間と1カ月になったかという話なんですけど、A、B、C、Dについては、処分場が運営中でございます、水質検査のためのポンプがついていまして、そのポンプを外していただける期間というのが1カ月しかなかったもので、1カ月になってしまいました。

【羽染委員】 観測井の位置について申請書の33ページに配置図があるんですけども、観測井のBというのは一番下流なんです、流れの矢印から見ると、下流側に当たるんですけども、下流のほうが変動幅が大きいのかなというふうに、このデータだけから見えるんですけども、観測井Hは1年間はかっていて13センチの変動幅だということですよ。そうすると、観測井Hはどこにあるかというと比較的上流側のほうにあるんですけども、A、B、C、Dがトータル年の変動幅を捉えていないとすると、観測井Hを最終確認するしかないんですが、この年は、たまたま13センチであったというふうに理解するしかないのかな。観測井Bとか観測井Aは、この1カ月間で40センチぐらい変動幅があったというふうに見えていいんですかね、これ。

【申請者(清水氏)】 おっしゃるとおりです。

【羽染委員】 そうですよ。年によって雨の降り方とか違いますので、変動幅は当然変わるんですけども、最大40センチぐらいの変動幅があり得るというふうに理解するとすれば、計画では1.5メートルから2メートルとりますよと言っていますから、水に廃棄物が浸るようなことはないのかなというふうに想像するんですけども、水位が上がる最高面と廃棄物面が余り近過ぎるとするのは好ましくない、できるだけ離してほしいというのがありますので、ちょっとその辺のデータを確認したかったんですが、これを見ると50センチ以上、1メートル以上離せば廃棄物が浸ることはないだろうと。事業主さん側からすれば、容器は大きく欲しいわけですけども、水面が上がることも考えて設計をしないと地下水と廃棄物が余り接触するようなことがないように気をつけてやってほしいなということです。

【申請者（徳山氏）】 わかりました。十分注意して施工をいたします。ありがとうございます。

【立本会長】 そのほか。どうぞ。

【杉田委員】 今の質問に関連して、観測井のEというのは、まだ観測を開始されていないということですか。データがどこにもないので。

【申請者（清水氏）】 Eはですね、Ⅲ期のときに設置した井戸でして、今現在、観測しております。水質だけになるんですけど、水質のモニタリングをしています。今回、Ⅳ期の拡大に伴って、例えば工事の振動で井戸が壊れたりとか、そういった場合は掘り直すということで、産業廃棄物課さんとも文書を交わしております。

【杉田委員】 水位は確認されていない、今回の工事されるところの水位を確認する場所としてここが一番最適だと思うんですね。水位は確認されていないんですか。

【申請者（徳山氏）】 大きいポンプが設置されていて、水位計が入らないんです。ですから、Eのところについては、井戸を設置したときに1カ月間モニタリングした水位しかないんです。

【杉田委員】 1カ月間ですか。

【申請者（徳山氏）】 そうです。今は、水位は観測していません。

【杉田委員】 データがないということですね。

【立本会長】 よろしゅうございますか。また、後から何かあれば。

【畑中委員】 その際、昔、古いところで観測はしたわけですね。そのときの状況はどうでしたか。

【申請者（清水氏）】 変わってないです。近傍の民家で井戸を設置してある場所があったので、その部分のチェックもⅢ期のときに行ったんですけど、大きな変化はなかったです。

【立本会長】 そのほか何かございませんか。どうぞ。

【三澤委員】 粉じんの飛散を防止するための散水についてお聞きしたいんですけども、具体的にどんなふうにして散水なさるんですか。

【申請者（清水氏）】 こちらのほうは散水車になるんですけど、こちらの散水車を埋め立てする場所の横まで持ってきてまして、散水をしながらか埋め立てを行っております。

【三澤委員】 1台で面積的にはどのぐらい水をまけるんですか。

【申請者（清水氏）】 埋め立てを行っている場所というのがダンプトラック1台とバックホーが1台なんですけど、実際にはダンプからおろしたところの範囲という形でまきながら。あと、この散水車は、朝夕等、風の強い日は場内全体をくまなく回って散水を行っております。

の基準としまして、風速5メートルを超えた場合は、必ずするという形で行っています。

【三澤委員】 わかりました。

【立本会長】 そのほか何か。どうぞ。

【畑中委員】 今回はプラスチックが大分多い予定になっていますが、アスベストを含んでいるプラスチックというのはごく少量だとは思いますが、割合的にはどの程度ですか。

【申請者（徳山氏）】 すみません。前回の表をご指摘いただいて、もう一回読み返して確認しました。第Ⅰ期のときに廃プラスチックが非常に多かったということがありました。第Ⅱ期、第Ⅲ期に、私が前回、第Ⅰ期のときに説明させてもらったんですが、廃プラスチックのパーセンテージが随分減ってきているんです。それはリサイクルのほうに回っているものがふえてきてまして、今回第Ⅳ期の計画、これはあくまでも計画の数量を出すときに、Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期の容量を参考にして数量をつくってしまったということで、実際には、廃プラスチックの容量はもっと少ない容量になります。大変申しわけございませんでした。ただ、もちろん全体の容量としては変わりません。廃プラスチックの容量は40%、50%というような数字になっていたと思うんですが、実際には30%以下になることは間違いなくですね。ちょっと最初にお出しした計画の数量が少し変わってくることになっております。すみませんでした。

【畑中委員】 その中でアスベストを含んでいるのはどの程度ですか。

【申請者（徳山氏）】 アスベストを含んでいるものというのはほとんどございません。アスベストが入っているものというのはスレートにほぼ限定されておりますので、そこには廃プラスチックというのは、それがアスベストとしてですか。

【畑中委員】 ええ。アスベストを含む廃プラスチックという表記がありましたので。

【申請者（徳山氏）】 ほとんど数量的には微々たるものなんですが、アスベスト自体を受け入れしているのがですね。すみません。本日、パーセンテージを出してきておりませんので、申しわけございません。

【畑中委員】 何かプラスチックのときは、底のほうに入れて散水をして飛ばないようにきちんとやるとなっていたので、量が多いと底のほうに入れるという状況ではないなと思ったんですが、少ないわけですね。

【申請者（徳山氏）】 先ほど言いましたように、二重梱包でアスベストのほうは。

【畑中委員】 アスベストはそうですけど、普通のプラスチック残渣を入れるときも、何か重たいものを上に乗せてプラスチックを底のほうに入れてというような表記が出ていたものから。量的に少なければ大丈夫だけど、多いと大変だなと思ひまして。

【申請者（徳山氏）】　そうですね。すみません。第Ⅰ期のときは、確かに容量的に多かったということがあるんですが、今はかなりパーセンテージも減ってきていまして、今回の計画での数字は、非常に申しわけございません、少し比率が違っていました。申しわけございません。

【畑中委員】　はい。

【立本会長】　展開検査を全車でやるというように述べてあるんですけども、言葉ではそうなるのかもわかりませんが、具体的にはどのような説明になるのでしょうか。展開検査の具体的な。

【申請者（徳山氏）】　展開検査は、まず一回、シートをはがすときに上から確認するんですが、実際は、鉄板の上でダンプアップをしまして、そのときにバックホー、いわゆるユンボという重機を使いまして拡散します。そこで中身の確認をいたしております。ただ、今の重機はこれで、散水をしながら全体を拡散させて、そこで物の確認をいたします。ただ、前回もご報告したと思うんですが、アスベスト等は現場から直接入ってくるものも多少あるんですが、あとは、自社の中間処理工場から入ってきております。ということで、同じ会社ということもございまして、中間処理工場での確認検査、搬出時の検査もしておりますので、二重の検査になっております。以上です。

【立本会長】　ありがとうございました。先ほどアスベストはないという話だったと思うのですが、今は多少あるというお話でしたが。

【申請者（徳山氏）】　いえ、アスベストは多少はあるんですが、ほぼ、全体量からすると量的には少量ということで、すみません。

【立本会長】　そういうことですね。そのほか。どうぞ。

【寺嶋委員】　私、先ほどの質問と関連して、タケエイさんは、たしか東京都の優良産廃事業者に認定されているんじゃないかなと思うんですけども、働く職員の人に対するコンプライアンス等を含めた作業基準の遵守の研修や、教育訓練というのは、会社としてどのような制度をお持ちなのでしょうか。

【申請者（徳山氏）】　先ほどの話でもありましたように、CSRという部署もありまして、それと、特に法遵守と安全衛生面に、今、非常に力を入れております。ちょっと先行しまして、川崎のリサイクル工場ではOSHMSの認証も取得いたしまして、先ほどお話ししましたようにISO、この教育等を順次、毎月安全衛生会議を通じまして、各作業員末端にまで教育できるように、毎月行っております。また、朝礼等でも非常に力を入れていまして、そういったところでの教育も行っております。あとは、コンプライアンス委員会というシステムもありまし

て、これは社長がみずから委員長になって、これも毎月行われております。また作業マニュアルももちろん全部つくってあります。簡単ですが、よろしいでしょうか。

【立本会長】 そのほか何かございませんか。よろしゅうございますか。

それでは、ほかにはないようですので、申請者へのご質問、質疑等はこれまでといたしますけれども、特に申請者については、意見がございませんので、ご退出願えればと思います。どうもありがとうございました。

【立本会長】 それでは、引き続き議題（２）に移りたいと思います。議題の２番目は、産業廃棄物最終処分場（安定型）の変更許可申請に対する答申でございます。ここですぐ答申書をまとめるというのは大変と思ひまして、実は事務局と相談をして、あらかじめ答申書を、第１回目の審議会のときの様々な意見等を含めまして仮に作成をしてみました。それと、本日の意見等をどのようにすり合わせをするかというようなことを検討していただきたいと思います。これは答申の案でございます。言葉遣い等々、あるいは加筆すること等は可能でございますので、まず事務局のほうでこれを読んでいただけますか。

【大塚産業廃棄物指導課長】 それでは、今、お配りしました答申別紙、（案）について読まさせていただきますので、別紙をご参照ください。

株式会社タケエイの産業廃棄物最終処分場（安定型）の変更許可申請について、留意すべき事項については下記のとおりです。

1 安定型最終処分場であることを考慮し、中間処理施設での徹底した分別処理を含めた廃棄物の適正な受入れを実施するとともに、全量展開検査を行い、適正な埋立管理を行って下さい。

また、適正な埋立管理の徹底を図るため関係作業者に十分な教育を実施して下さい。

2 地下水等周辺の環境保全について万全を期するとともに、維持管理計画に基づき、地下水観測井、浸透水採取設備の水質についてモニタリング等の維持管理を徹底して下さい。

3 維持管理計画に基づく調査結果については、周辺住民に情報開示するなど地域住民との相互関係を良好に保つための努力を積極的に実施して下さい。

4 騒音、振動、粉じん等を発生させるような環境に負荷を与える行為への配慮は施設の稼働時のみ行うのではなく、設置工事時においても配慮を怠らず、可能な限り負荷を回避又は低減して下さい。

特に計画掘削底面と地下水位が近いことから施工には十分留意し、支障が生じた場合は掘削底面の高さ等の見直しを行って下さい。

以上でございます。

【立本会長】 事務局がおおよそまとめた文章はこういう文章を仮に作成したわけですけども、いかがでございましょうか。それに本日の審議において質問に対する回答がございましたが、その件も踏まえてこれに書き入れるか、あるいはそれは書き入れてなくてもいいかどうか等もあわせて審議願えればありがたいと思います。

【寺嶋委員】 1番のところなんですけど、中間処理施設で中間処理して、その処理残渣を何かこの処分場に搬入するということを言っていましたよね。その処理残渣の中でアスベストを含む廃棄物に関しては選別して排出するということになるんでしょうか。ちょっとそのところを事業者さんに確認はできなかつたんですけどね。

【木村産業廃棄物指導課処理業係長】 一般的に中間処理施設に入れるアスベスト廃棄物につきましては、排出時に全て区別される形になっております。

【寺嶋委員】 中間処理施設から出ていくときに。

【木村産業廃棄物指導課処理業係長】 入るときですね。中間処理設備で破碎とかすることはございませんので、直接、最終処分場のほうへ行く形になります。

【寺嶋委員】 なるほど。そうすると、この分別処理を含めたのは。

【木村産業廃棄物指導課処理業係長】 この分別処理は、主に安定型の最終処分場ですので、タケエイさん、この他にいろいろ施設をお持ちだと思うんですが、受入れ物の中に安定5品目以外のものが混ざらないように、排出時にその品目について分別設定した処理を行って適正なそのものを、また今度受け入れるということをしてくださいという趣旨でございます。

【寺嶋委員】 それでわかりました。結構かと思います。

【羽染委員】 これは処分場のところで見たとときに、「中間処理施設での徹底した分別処理を含めた廃棄物の適正な受入れ」というのは、中間処理の入り口ではなくて、最終処分場の入り口を言っているわけですよね。

【木村産業廃棄物指導課処理業係長】 受入れですか。ここの「適正な受入れを実施」という部分ですか。

【羽染委員】 ええ。

【木村産業廃棄物指導課処理業係長】 はい。

【羽染委員】 そうおっしゃっているわけですよね。ちょっと紛らわしいですね、中間処理の入り口なのか、最終処分場の入り口なのか。いわゆる中間処理施設で徹底分離された廃棄物を極力受け入れてくださいねと言いたいわけですよね。

【木村産業廃棄物指導課処理業係長】　そうです。さらに、それを全量展開して、先ほどタケエイの申請者も言っていたんですが、実質二重でチェックすることにより、安定5品目のみを検査して受け入れますよという部分になろうかと思うんですが。

【寺嶋委員】　「分別処理された」というのはまずいんですか。「分別処理を含めた」というのを「分別処理された」と。

【羽染委員】　中間処理、そうですね。そのほうがわかりやすいですね。

【立本会長】　わかりやすいね。

【羽染委員】　「中間処理施設で徹底した分別処理された廃棄物を適正に受入れる」。

【立本会長】　そのほうがわかりやすいね。

【寺嶋委員】　「た」が2つあるんで「徹底し分別処理された」ぐらいの表現で。

【木村産業廃棄物指導課処理業係長】　ここは、中間処理を通ったもののみを入れるということじゃないと、説明が先ほどもあったかと思うんですが、排出物については、二重梱包した時点で直接最終処分場に入れられるものもありますので。また、中間処理場、タケエイの自社の中間処理場なんですけど、そこで処理されたものも入ってきますので、そのことで「含めた」という表現に、当初はさせていただいたんですが。

【羽染委員】　中間処理されないものも入ってくる可能性もあるんですよね。

【木村産業廃棄物指導課処理業係長】　そうですね。

【羽染委員】　だから、極力、中間処理施設の徹底した分別処理した廃棄物の適正な受入れとか、どこか必ずしも全量を中間処理されたものではないということの含みも残しておいたほうがいいような気がしますけどね。

【木村産業廃棄物指導課処理業係長】　その文言については、ちょっと後で検討させていただくという形でよろしいでしょうか。

【立本会長】　そうすると、そこはまず今ですと、「中間処理施設」の前に「極力」という言葉を補うと同時に、2行目の何々を「含めた」というところを「処理をされた」というように変えるということでもよろしゅうございますか。

【羽染委員】　そうですね、そのほうがわかりやすいですね。

【立本会長】　では、そのように事務局お願いします。その他は何か。

【羽染委員】　それから、2番に関連することなんですけど、一番最後の行なんですけど、「維持管理を徹底して下さい」と言うのはいいんですけど、これって、市に定期的に報告することになっているんですよね。

【木村産業廃棄物指導課処理業係長】 はい。維持管理報告書にて求めております。

【羽染委員】 だから、「維持管理を徹底し、報告してください」とか、そういう言葉が入ったほうが、もちろん市の指導基準か何かであるんでしょうけども、きちんとそのデータを市側が見てチェックされて、それで指導するという体制をつくっておかないと、モニタリングだけして、異状なのか異状でないのかというのは市側はわかりませんので、そういう報告してくださいとかというの、一応念のために入れておいたほうがいいかなという気がします。

それと、一番最後の文章なんですけど、2行です。「特に計画掘削底面と地下水位が近いことから施工には十分留意し、支障が生じた場合は掘削水面の高さ等の見直しを行って下さい」この文章は、地下水位のところに関連するので、当初、2番に持ってきてもいいのかなと思ったんですが、特に一番最後につけたという理由は何かあるんでしょうか。これは計画に対する指導だということで一番最後に入れたということなのではないでしょうか。

【木村産業廃棄物指導課処理業係長】 そうですね、4番の趣旨としては、環境に負荷を与える行為を稼働時だけではなく設置工事についてもやってくださいということで、この間、委員の先生方からも、第1回、第2回について指摘があったとおり、工事中に底面から地下水がしみ出した場合どうするんだというような話の場合に、事業者側のほうで計画について見直しをしますというような回答がありましたので、そこを具体的に、設置工事中にもそういうことがあった場合、地下水汚染の懸念が発生しますから、速やかに高さを上に上げて見直しをなさいということ、あえてここで入れさせていただきました。

【羽染委員】 そういうことであれば、計画に関しては、何か申請書というのが担保になるんですかね。「何々を遵守するとともに」、のような枕言葉があって、その中でも特に地下水位の計画設計については、十分注意して行ってくださいというような枕言葉があったほうがいいかなと。一番最後につけるならばですね。そんな気がしました。

【木村産業廃棄物指導課処理業係長】 はい。

【立本会長】 それは「特に」の前じゃなくて。

【羽染委員】 「特に」の間ですかね。

【立本会長】 間ですか。そうか、そうか。

【羽染委員】 計画に当たってはという。

【立本会長】 特に計画に当たっては計画掘削……

【羽染委員】 申請書に対する回答になるんですけど、これは。「申請図書を遵守するとともに」とか、そんな枕言葉があればいいと思うんですけどね。

【立本会長】 これですね、要は。

【羽染委員】 そうですね。これが恐らく担保に、この審査結果だということになると思いますので。

【立本会長】 申請書、ここに名前を全部入れればいいですか。申請書。

【羽染委員】 そうですね。産業廃棄物処理施設変更許可申請書を遵守するという形になるんですかね。

【立本会長】 では、枕言葉として「特に計画に当たっては、産業廃棄物処理施設変更許可申請書を遵守し」という文言でしょうか。

【羽染委員】 「申請書の図書を」ですかね。

【立本会長】 「申請書の図書を遵守するとともに計画掘削底面と」と続けばいいわけですね。

【羽染委員】 「特に」の前ですね、この言葉はですね。

【立本会長】 では、「特に」の前ですね。

【羽染委員】 そうですね。

【立本会長】 では、そのように変更させていただきたいと思います。事務局、よろしゅうございますね。

【大塚産業廃棄物指導課長】 はい。

【立本会長】 その他はございませんか。本日いろいろ論議された内容は、いかがいたしますか。特に入れる必要がございますか。地下水位の関係等々、変動等、それは特に入れなくてもいいような気がしますけどね。

では、もう一度確認の意味で、変更したところを事務局で整理して、読み上げてください。変更したところだけでよろしゅうございます。

【木村産業廃棄物指導課処理係長】 では、私のほうで確認をさせていただきます。1点目につきまして、文言としましては、「安定型最終処分場であることを考慮し、極力中間処理施設での徹底した分別処理をされた廃棄物の適正な受入れを実施するとともに、全量展開検査を行い、適正な埋立管理を行って下さい。

また、適正な埋立管理の徹底を図るため関係作業者に十分な教育を実施して下さい。」

【大塚産業廃棄物指導課長】 「徹底し」ですよ。 「徹底し分別処理された」でよろしいんですよ。

【立本会長】 そうですね。

【木村産業廃棄物指導課処理係長】 2番につきましては、全体の文面としてはそのまま。

最後に関しまして、結びを「モニタリング等の維持管理を徹底し、報告して下さい。」という形にいたします。

3番はそのまま、4番の後段の部分ですが、確認ですが、これは「特に」の前につけるという形で、「計画に当たっては廃棄物処理施設変更許可申請書の図書を遵守するとともに計画掘削底面と地下水位が近いことから施工には十分留意し、支障が生じた場合は掘削底面の高さ等の見直しを行って下さい。」という形でもよろしかったでしょうか。

【立本会長】 いかがですか。

【寺嶋委員】 1番の文言についてですが、「極力中間処理施設での徹底した」のように、ここはやはり「た」が要るように思いますね。しかし、「徹底した分別処理された」となると、ちょっと表現がよくないですね。ここはちょっと後で直してください。

【木村産業廃棄物指導課処理業係長】 はい。この辺はまた改めて、こちらのほうで見直しまして、照会させていただきます。

【立本会長】 では、そういうことで、今すぐ直しますか。それとも、もし了解を得るならば、事務局と私とで、今直した点を確認して、その直したものを正式な書類として各委員に配付してもらおうということで、それでよろしゅうございますか。

【各委員】 そうですね。

【立本会長】 では、事務局と私のほうで責任を持って、今の文言を加筆と変更したところを直しまして、直したものについて各委員さんに送付するということで了解を得ることにいたしましょう。ありがとうございます。では、そのような形でお願いします。こちらの、鑑はどうなるのでしょうか。まだ、あるわけでしょう。

【木村産業廃棄物指導課処理業係長】 実際の答申のときにはこちらに鑑がございます。今回は案の文面だけしか刷っておりませんので。

【立本会長】 出ていませんからね。だから、今度各委員に配付するときは、鑑も含めて送っていただけますか。

【木村産業廃棄物指導課処理業係長】 はい、わかりました。

【羽染委員】 何か定型のかがみがあるわけですね。

【木村産業廃棄物指導課処理業係長】 はい。

【羽染委員】 先ほどの文言も、前に書いてあって、同じことは書かなくとも大丈夫だと思いますので、その辺、調整していただければ大丈夫だと思います。

【立本会長】 では、そうのようにさせていただきます。

【立本会長】 続いて3番目の議事でございますが、その他ということですが、いかがでしょう、事務局。

【木村産業廃棄物指導課処理係長】 特にはございません。

【立本会長】 そうしますと、本日の議題は以上で全て終わりになりますけれども、先ほど言いましたように、答申書はかがみをつけて、今直したところを、事務局と私、責任持って、できたものを委員の方々にお送りして完成ということにさせていただきたいと思います。では、その他は特にございませんので、事務局にお返しいたしますけれども、何か皆さんのほうで質問等ございましたらお願いしたいと思いますけれども、ないようでしたら事務局のほうにお返しします。いかがでしょうか、ございませんか。

では、事務局、お願いいたします。

【木村産業廃棄物指導課処理係長】 委員の皆様、長時間にわたるご審議、まことにありがとうございました。

以上で、平成26年度第2回千葉市廃棄物処理施設設置等審議会を終了させていただきます。本日の議事録は公開する予定ですので、後日、議事録（案）を送付させていただき、委員の皆様を確認をお願いいたします。

また、先ほど立本会長からもご説明があったように、立本会長と事務局で答申（案）を作成し、委員の皆様へ照会させていただきたいと存じます。

なお、答申につきましては、10月28日を予定しております。本日は大変ありがとうございました。